

2020年8月20日

各 位

会 社 名 ニューラルポケット株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 重松 路威  
 (コード番号：4056 東証マザーズ)  
 問 合 せ 先 取締役 CFO 財務管理部長 染原 友博  
 (TEL 03-5157-2345)

## 東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2020年8月20日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年12月期(2020年1月1日～2020年12月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

### 【個別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2020年12月期 (予想)		2020年12月期 第2四半期 累計期間 (実績)		2019年12月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率		
売 上 高		776	100.0	327	100.0	311	100.0
営 業 利 益 又は営業損失(△)		165	21.3	52	16.0	△133	—
経 常 利 益 又は経常損失(△)		139	18.0	45	13.8	△139	—
当期(四半期)純利益 又は当期純損失(△)		115	14.9	44	13.7	△139	—
1株当たり当期 (四半期)純利益 又は1株当たり当期純損失(△)		8円55銭		3円36銭		△10円59銭	
1株当たり配当金		0円00銭		0円00銭		0円00銭	

- (注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2020年3月27日開催の取締役会決議により、2020年4月15日付で株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っているため、2019年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失(△)を算定しております。
3. 2019年12月期(実績)及び2020年12月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 2020年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募予定株式数(415,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大82,200株)を考慮しておりません。

## 【2020年12月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社全体の見通し

当社は、「AI エンジニアリングで未来の社会を形にする」をミッションに掲げ、実社会での AI 技術の活用と産業化を目指して事業を展開しております。” Smart Cities Market by Functional Area: Global Opportunity Analysis and Industry Forecast, 2018-2025” (Allied Market Research)によると、当社の技術の活用が見込まれるスマートシティの世界的な市場規模は 2025 年には 2.4 兆ドルになると見られています。

当社のエッジ AI は、スマートシティの中で使われるさまざまなアプリケーションに搭載可能であり、進行中の開発プロジェクトの中で不動産デベロッパーや通信事業者、セキュリティ管理会社、技術商社等、都市開発を支える様々な事業分野の大手企業と協働しております。また、市場拡大を取り込むため、2020年4月30日には当社初の海外拠点として、シンガポール支店を登記いたしました。現地企業と協業関係を強化しながら事業展開を加速してまいります。

サイネージ広告関連サービスにおいては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令を受けた商業施設の閉鎖に伴い、足元では、サイネージの設置作業に一部遅れが生じておりますが、中止に至った事例はありません。複数の商業施設やオフィスビル、観光施設などで当社エッジ AI を搭載したデジタルサイネージの設置が進んでおります。

ファッショントレンド解析サービスにおいては、大手アパレルブランド等において、当社サービスを活用した企画商品が全国の店舗で販売されております。継続的にサービスを提供する事業モデルで、安定的な収益基盤を構成しております。

そのような状況の下、2020年12月期の当社業績は、売上高 776 百万円（前期比 149.4%増）、営業利益 165 百万円（前期は営業損失 133 百万円）、経常利益 139 百万円（前期は経常損失 139 百万円）、当期純利益 115 百万円（前期は当期純損失 139 百万円）を見込んでおります。

### 2. 業績予想の前提条件

上記業績予想は、2020年1月から5月までの実績数値を踏まえ、2020年6月から12月までの予想数値を用いて算出しております。

#### (1) 売上高

当社は、AI エンジニアリング事業の単一事業で、スマートシティ関連サービス及びサイネージ広告関連サービス、ファッショントレンド解析関連サービスの3つのサービスを展開しております。

##### ① スマートシティ関連サービス

スマートシティ関連サービスは、当社が開発し、顧客に提供する画像分析ソリューションに対し、固定額の使用料を受領しております。使用料は、ソリューションごとに毎月一定額が計上される予定であり、その金額を基に売上高を算出しております。

##### ② サイネージ広告関連サービス

サイネージ広告関連サービスについては、本サービスの提供の対価として、契約に基づき大手通信事業者から固定報酬を受領しております。当該収益は、契約に基づき一定額が計上される予定であり、その金額を基に売上高を算出しております。

##### ③ ファッショントレンド解析関連サービス

ファッショントレンド解析関連サービスとして、アパレル企業に対し、ファッション特性を定量化し、MD（商品企画）業務をデジタル化することで強化するサービス（AI MD<sup>®</sup>（エーアイエムディー））を提供しております。顧客より同サービスの毎月定額のシステム使用料を受領しております。

そのような状況の下、2020年12月期の売上高については、既に顧客と契約締結済であるものを積み上げるとともに、スマートシティ関連サービスとファッショントレンド解析関連サービスについて、既に顧客と商談を進めており、かつ、最終的に契約締結に至り売上が計上されることが一定の確度で見込まれるものを一定程度積み上げた結果、776 百万円の売上高を見込んでおります。

具体的には、前者の契約締結済の売上高として合計 588 百万円見込んでおります。なお、案件の契約期間の途中で解約については、これまでの実績もないことから予算上も見込んでおりません。

また、後者の最終的に契約締結に至り売上が計上されることが一定の確度で見込まれるものに係る売上高として合計 188 百万円を見込んでおります。なお、これらは、各案件の顧客との商談の進捗状況を総合的に勘案して合理的に見込まれるものを積み上げており、具体的な商談に至っていない新規の案件は含まれておりません。

なお、ソフトバンク株式会社に対する売上高は 348 百万円（総売上の 44.9%）となる見込みです。

#### (2) 売上原価、販売費および一般管理費、営業利益

当社の売上原価並びに販売費および一般管理費は、人件費及び地代家賃が主たる費目となっております。人件費については、直近の実績値及び今後の人員計画に基づき策定しており、前期比 95%増としております。地代家賃及びその他の費用については、直近の実績値や発生が見込まれる費用を積み上げて算出しております。

以上の結果、2020 年 12 月期の営業利益は 165 百万円（前期は営業損失 133 百万円）を見込んでおります。

#### (3) 営業外損益、経常利益

営業外損益は、主に営業外費用として上場関連費用 20 百万円及び支払利息 6 百万円の発生を見込んでおります。

以上の結果、2020 年 12 月期の経常利益は 139 百万円（前期は経常損失 139 百万円）を見込んでおります。

#### (4) 特別損益、当期純利益

特別損益は見込んでおりません。

以上の結果、2020 年 12 月期の当期純利益は 115 百万円（前期は当期純損失 139 百万円）を見込んでおります。

#### 【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以 上

## 2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年8月20日

上場会社名	ニューラルポケット株式会社	上場取引所	東
コード番号	4056	URL	<a href="https://www.neuralpocket.com/">https://www.neuralpocket.com/</a>
代表者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)	重松路威
問合せ先責任者	(役職名)取締役CFO 財務管理部長	(氏名)	染原友博 (TEL) 03(5157)2345
四半期報告書提出予定日	—	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第2四半期の業績 (2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	327	—	52	—	45	—	44	—
2019年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	3.36	—
2019年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 2020年12月期第1四半期より四半期財務諸表を作成しているため、2019年12月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2020年12月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
2. 当社は、2020年3月27日開催の取締役会決議により、2020年4月15日付で株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っており、1株当たり四半期純利益は、前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価を把握できませんので記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	1,290	670	52.0
2019年12月期	1,056	625	59.2

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 670百万円 2019年12月期 625百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年12月期の業績予想 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	776	149.4	165	—	139	—	115	—	8.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期2Q	13,369,000株	2019年12月期	13,369,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期2Q	—株	2019年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期2Q	13,369,000株	2019年12月期2Q	—株

(注) 1. 当社は、2020年3月27日開催の取締役会決議により、2020年4月15日付で株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

2. 当社は、2019年12月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の日本経済は、昨年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けました。4月7日に7都府県に発令された緊急事態宣言は、16日に全都道府県にまで拡大されました。大きく外出を制限される環境下、在宅勤務の需要が急拡大しました。また、外出が制限される中でも経済を動かし、コロナウイルスとの共存を前提とした新しい社会を創る”ウィズコロナ (With Corona)”が事業展開のキーワードになりました。

当社は、そうした社会の急速な変化に柔軟に応えながら、事業を進めております。スマートシティ関連サービスでは、4件の新規契約が開始いたしました。中長期的に安定的な収益が見込めるサービスとなります。その他、複数の新規分野においてサービス開始に向けた検討が継続しております。

サイネージ広告関連サービスでは、緊急事態宣言下において、機器の設置先である商業施設の閉鎖などの影響もありましたが、緊急事態宣言解除に伴い、新規設置及び稼働が再開しております。

ファッショントレンド解析関連サービスでは、新規契約案件が1件増加いたしました。前事業年度と同様に、当社の安定的な収益基盤となっております。当社サービスを活用する顧客であるアパレルブランドのプロパー消化率向上に資するサービスを継続的に提供してまいります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は327,149千円となり、営業利益52,399千円、経常利益45,037千円、四半期純利益は44,892千円となりました。

なお、当社の事業セグメントはAIエンジニアリング事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載は省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

##### (資産の部)

当第2四半期会計期間末における流動資産は1,117,182千円となり、前事業年度末に比べ197,324千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が増加したこと等により現金及び預金が153,299千円増加したこと及び売上高の増加に伴い受取手形及び売掛金が38,555千円増加したことによるものであります。この結果、総資産は、1,290,391千円となり、前事業年度末に比べ233,462千円増加いたしました。

##### (負債の部)

当第2四半期会計期間末における流動負債は506,813千円となり、前事業年度末に比べ190,565千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が増加したことによるものであります。この結果、負債合計は、619,638千円となり、前事業年度末に比べ188,570千円増加いたしました。

##### (純資産の部)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は670,752千円となり、前事業年度末に比べ44,892千円増加いたしました。これは、利益剰余金の増加によるものであります。

#### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の残高(以下「資金」という。)は、前事業年度末より153,299千円増加し、979,078千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は19,451千円となりました。主な要因といたしましては、税引前四半期純利益45,037千円及び売上債権の増加38,555千円によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動の結果、使用した資金は50,625千円となりました。主な支出要因は、無形固定資産の取得による支出49,847千円であります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動の結果、獲得した資金は、184,473千円となりました。これは短期借入金の純増額190,000千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	825,778	979,078
受取手形及び売掛金	84,150	122,705
その他	9,929	15,399
流動資産合計	919,858	1,117,182
固定資産		
有形固定資産	31,676	28,985
無形固定資産	34,500	73,424
投資その他の資産	70,892	70,798
固定資産合計	137,070	173,208
資産合計	1,056,928	1,290,391
負債の部		
流動負債		
短期借入金	260,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	3,420	3,420
未払法人税等	290	145
その他	52,537	53,248
流動負債合計	316,247	506,813
固定負債		
長期借入金	114,820	112,825
固定負債合計	114,820	112,825
負債合計	431,067	619,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	847,875	847,875
利益剰余金	△322,014	△277,122
株主資本合計	625,860	670,752
純資産合計	625,860	670,752
負債純資産合計	1,056,928	1,290,391

(2) 四半期損益計算書  
第2四半期累計期間

	(単位：千円)
	当第2四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
売上高	327,149
売上原価	22,535
売上総利益	304,614
販売費及び一般管理費	252,214
営業利益	52,399
営業外収益	
受取利息	3
助成金収入	97
その他	2
営業外収益合計	103
営業外費用	
支払利息	2,354
為替差損	39
株式公開費用	5,072
営業外費用合計	7,466
経常利益	45,037
税引前四半期純利益	45,037
法人税、住民税及び事業税	145
法人税等合計	145
四半期純利益	44,892

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	45,037
減価償却費	10,588
受取利息	△3
支払利息	2,354
株式公開費用	5,072
売上債権の増減額(△は増加)	△38,555
前払費用の増減額(△は増加)	△3,045
未払金の増減額(△は減少)	△2,880
未払費用の増減額(△は減少)	△10,417
預り金の増減額(△は減少)	300
その他	15,173
小計	23,624
利息の受取額	3
利息の支払額	△3,886
法人税等の支払額	△290
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,451
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△398
無形固定資産の取得による支出	△49,847
敷金及び保証金の差入による支出	△380
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50,625
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(△は減少)	190,000
長期借入金の返済による支出	△1,995
株式公開費用による支出	△3,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	184,473
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	153,299
現金及び現金同等物の期首残高	825,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	979,078

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。